

業務プロセスの可視化で生産性アップ! 管理・間接部門の改善必勝法」……………

システム科学(東京都文京区、石橋博史社長、03・6632・7811)は7月15日に本社研修室で「業務プロセスの可視化で生産性アップ! 管理・間接部門の改善必勝法」(日刊工業新聞社・可視経営協会協賛)の体験講習会を開催。当日は全国から企業経営者やホワイトカラー層の管理職ら44人が参加。セミナーでは「業務の見えない、測れない、改善できないの」3ないの解消

が重要」と指摘した上で、仕事をチャート化することで可視化、ムダを省いて生産性をあげる同社独自の手法「HIT法」の理論を石橋社長が解説。午後は田代敏也取締役が具体的なツールについて実践的な講習会を開催。取り組んだ企業の中には、生産性が3倍にも向上した事例もあるという、当日の講習会の内容(一部抜粋)を紹介する。

第一部 基調講演

「業務プロセス可視化法によるムダと改善法の目的」株式会社システム科学 代表取締役社長 石橋 博史氏

「業務の「3ない」を解決する活動の進め方

今回の講習会のテーマが欲しいと思っていますが、マは業務の3ない(見えない・測れない・改善できない)を解消することです。午前中は講義形式、午後はオペレーション業務を行うて貰います。今回は日刊工業新聞社の皆さんにお手伝いをして貰っています。資料の中にある「工場管理」で4回の連載を行っています。時間の限られた講義となりますので、先ほど会場で放映していたDVDも「上司を説得できない」という参加者の要望に応えたもので、ぜひご活用頂きたいと思えます。



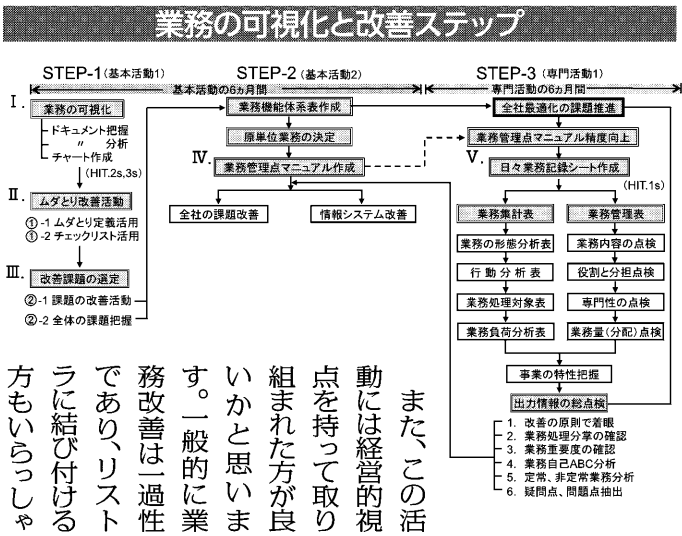
受講者を前に熱弁をふるう石橋社長

「業務の3ない」を解決する活動の進め方。この手法は今いる人材を活用することです。人材がいないのではなく育て、勉強や機会を与えていくのでは」と尋ねる。方法論が無いという話になります。一昨年に『トヨタ方式ホワイトカラーの業務改善 最少人数で最強組織をつくる』(ダイヤモンド社)を出版、出席者の中にも読んできたという方がいます。今回はそれにプラスして、「業務の3ない」を解決するHIT法を紹介いたします。

HIT(ヒット)法は野球でいう所のホームランではなく、単打を積み重ね、継続できるツールとなっています。今までの改善活動との違いは、自身の仕事を評価できる仕組みになっている点です。成功を組織三者(経営者・管理者・担当者)が同一視線、同一活動を行うて情報を共有、成功を三者が同時に実感できるHIT法です。

本日は役員、部課長以上の方が30名、係長や主任が8名、担当者が6名が受講されています。導入を検討されている企業が24社、ニーズとしては業務の可視化が21社、意識改革・効率化・生産性向上・ムダと改善が21社、マニュアル化と人材育成が4社となっています。今後は少子高齢化社会ですが、経営者は皆さ

活動の必要性和目標を明確にして進める。システム科学では直近10社、2045名の管理職・担当者にアンケートを実施。これを見ると情報革新、社内情報管理、業務管理、社員の人材・人事制度などが課題とされています。この手法では競争心を計画的に社員間・部門間で明確化していきます。



また、この活動には経営的視点を持って取り組まれた方が良いかと思えます。一般的に業務改善は「過剰であり、リストアップに結び付ける方もいらっしゃる

人・モノ・金+(情報・時間)を創出する活動

Output (産出) / Input (投入) = 1 / 1 = 100%. ①の例: 1 / (1 - 0.5) = 1 / 0.5 = 200%. ②の例: (1 + 0.5) / (1 - 0.5) = 1.5 / 0.5 = 300%. 「経営の資源: 人・モノ・金、+情報、時間などの「最少化」」